

科目区分：中等教育コース(国語教育専修)

授業科目名：書写書道概説

「書写書道概説」授業報告

国語教育講座・東 賢司

1 授業の概要

本授業は3年生後期に配置されている中学校国語免許取得のための科目である。本年度から、中等国語の学生は激減し、変わって小学校サブコースの学生が大半を占めるようになった。受講生は全員で34名であるが、国語の免許取得者は少し少ないのではないかと懸念している。

この授業は必修科目ということもあり、免許法施行規則に明記されている「一般的包括的な内容を含む」ことを実施する必要がある。授業前半は、新しい中学校学習指導要領の講義を行い、確認のテストを実施した。また、授業後半は、毛筆学習を個別指導の形で実施し、個別の力量に応じた教材の学習を行わせた。毛筆の力量に差がありすぎて、一斉の授業でそれぞれの力量を高めることが難しくなっているためである。本年度も、スタート時点では、小学校低学年レベルから教員免許保有者レベルの学生がいた。書写学習は高校のみならず、学習指導要領で学習が明記されている小・中学校でも十分に（全く）行われていないことがほとんどである。また、個別指導では、実際にその場で課題を書かせることを行った。書写の場合、学んだ課題を他に生かすことが出来ない学生が多い。応用力を高めるため、あえて学習をしたことのない課題を出した。また、実際に書いているところを見ることにより、筆の持ち方運び方・圧力のかけ方・リズム等を確認することができるという利点がある。

その他、授業前半では、楷書と行書の学習のため、硬筆練習を行い、主として、漢字と平仮名が混じった文書課題を書かせた。また、新しい学習指導要領では常用漢字の変更や学年別配当漢字の入れ替えが行われるため、それらを重点的に確認させるとともに、一文字一文字の筆順が理解できているかどうか確認

のテストを実施した。例年のことであるが、小学校で学習する常用漢字1000文字あまりの文字でも正解率が7割ほどであり、その学習の不十分さが確認できている。なお、COC+の内容についてはこの授業になじまないために実施しなかった。

2. 学生のアンケート

学生から寄せられた感想の一部である。

・個別の指導は、どこが問題なのかを指摘され、自分の弱点を明確に知ることができた。その問題点を重点的に練習し、克服することができた。

・指導要領は理解が難しいが、書写に関する内容がよく理解できた。時間数も書かれていて、教師になってもこれを実施しなければならないと思った。

・常用漢字の筆順の間違が多く、今までの自分の書き方に問題があることがわかった。板書は文字を大きく書くので、子どもに指摘されないようにしないといけないと思った。

・毛筆を先生の前で書くことは緊張した。しかし、実際に自分が教員になると、子どもの前で書くこともあるだろうから、その練習と思いがंबった。

いずれも狙いとしたものへの反応があり、技量以外に意識の上でも高めることが出来たのだろうという手応えがあった。

3. 今後の課題

指導要領の学習、筆順・硬筆・毛筆の学習と多くのメニューを行ったが、これらのいずれでも反応が今ひとつの学生がいる。特に、中等国語に所属する学生には反応が薄いという懸念がある。逆に小学校サブコースの学生の中には相当に熱心な学生も見られた。今年は初年度なので数年観察を継続せねばならないが、授業の改善の必要があるかもしれない。